

一步一步の取り組みを大きな道しるべに

# MILESTONE

マイルストーン

## 第102期 中間事業報告書

平成17年4月1日から平成17年9月30日まで

コニカミノルタ ホールディングス株式会社

## 株主の皆さまへ

株主の皆さまと描く、コニカミノルタの軌跡

● ごあいさつ .....	1
● 株主の皆さまへ .....	2
● <b>中間連結決算ハイライト</b> .....	4
● 主要事業の状況 .....	5
● <b>中間決算のご報告</b> .....	7
● <b>特集:21世紀をサポートする、 コニカミノルタのコア技術</b> .....	9
● 新製品のご紹介 .....	11
● トピックス .....	12
● 会社概況 .....	13

The essentials of imaging



KONICA MINOLTA

# Management Message

経営ご報告



株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

第102期中間期(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)の事業報告をご高覧いただくにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当社は、グループの進むべき指針として平成17年度から20年度までの4カ年計画である「中期経営計画<V-5プラン>」をスタートさせました。本計画では、当社を取り巻く経営環境の諸変化に対してスピードをあげて適切に対応し、さらなる選択と集中を徹底することによって、より強い企業グループを形成することを目標としております。

当中間期は、カラーMFP(多機能複写機)や液晶偏光板用保護フィルム等、当社が重点分野として販売拡大に注力する事業領域が、業績向上に大きく貢献いたしました。その他の事業も概ね順調に推移し、とりわけ営業利益は394億円となるなど、当初の計画を上回る成果をあげることができました。

構造改革に取り組むフォトイメージング事業(カラーフィルム・印画紙・カメラ)においても、事業分野の絞り込みや経費削減などにより損失幅は縮小いたしました。カラーフィルム等の写真感光材料の需要減少やデジタルカメラの価格下落といった市場環境の変化は、その成果を上回る勢いで進んでいます。こうした傾向は、今後もさらに加速度を増すことが予想されるため、当社はこれまでの計画を大幅に見直し、同事業の規模縮小を前倒して実施することといたしました。

その結果、当中間期において同事業の生産設備等の減損損失として228億円や構造改革費用を含め287億円の特別損失を計上し、また年間では約900億円の特別損失の計上が見込まれることから、平成18年3月期の中間配当は無配とさせていただきます。また、期末配当につきましても見送りとさせていただきます所存でございます。株主の皆さまには誠に申し訳なく存ずる次第でございますが、フォトイメージング事業の構造改革の実行を加速化させるとともに、グループの総力をあげて早期の業績回復を図ってまいりたい所存ですので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成17年12月

代表執行役社長 岩居 文雄

# Management Interview

## Question

### 1

**当中間期の概況を事業別に説明してください。**

情報機器事業は、カラーMFPの販売台数が前年に比べて82%増えるなど好調に推移した結果、増収増益となりました。新開発のファームウェア(制御機構)を搭載して、平成17年2月に発売開始したカラーMFP「bizhub(ビズハブ)C450」は、国内外のお客様から大変高いご評価をいただいています。また、当中間期には「bizhub C351」「bizhub C250」の新製品も発売し、当社のカラーMFPは全5機種と強力な商品構成となりました。一方、カラープリンタは、自社ブランド製品の販売は着実に増加しましたがOEM向け販売が大きく減少したため、販売台数は33%減となりました。また、熾烈な価格競争の影響もあり、残念ながら事業採算は悪化しました。

オプト事業(光学デバイス・電子材料)は、前期に引き続き液晶偏光板用保護フィルムの販売が大きく拡大し、増収増益となりました。ビデオカメラやカメラ付携帯電話など、デジタル家電向けのレンズユニットやコンポーネントも総じて販売を伸ばしています。一方、CDやDVD用光ピックアップレンズは平成16年夏以降の調整局面もようやく回復傾向を見せ始めました。

事業規模の最適化を進めるフォトイメージング事業は、減収ながら損失幅は大きく縮小しました。カラーフィルムや印画紙などは需要

減少が続き損益が悪化しましたが、デジタルカメラでは8月に発売したデジタル一眼レフ「α Sweet Digital(アルファ・スウィート・デジタル)」の販売が好調に推移するなど、収益の改善に貢献しました。また、最適規模へ向け経費の削減にも取り組んでいます。

メディカル&グラフィック事業では、特に医療分野でのデジタルX線画像撮影装置「REGIUS(レジウス)」やデジタル画像出力装置「DRYPRO(ドライプロ)」の販売が好調に推移した結果、増収増益となりました。また、計測機器事業も色計測分野を中心に堅調に推移しました。

## Question

### 2

**下期の事業見通しについて説明してください。**

下期の売上高、営業利益につきましては情報機器事業やオプト事業を中心に増収増益を目指したいと考えています。情報機器事業では好調なカラーMFPに加えて、モノクロMFPも新製品中心の商品構成に切り替わり、採算性の向上が期待されます。オプト事業では液晶材料の新工場の本格稼働が始まり、生産能力が大幅に増強されます。また、メディカル&グラフィック事業も医療分野のデジタル機器を中心に販売拡大が見込まれます。

一方では、カラープリンタの競争激化、デジタル家電の市況の変化、カラーフィルム等写真感光材料の需要減少、デジタルカメラの価格下落、などの懸念材料も十分に考慮しておく必要があります。このような事業環境の変化に対しては、迅速にそして適切に対処していきたいと考えています。

また、フォトイメージング事業の規模縮小を前倒して実施することとしたため、当下期にも多額の費用発生が見込まれます。その結果、当期末の純利益段階でも大きく損失を計上する見通しです。

Question

3

### フォトイメージング事業の構造改革について説明してください。

今回の中間期決算にあわせて、フォトイメージング事業の大幅な規模縮小を従来の計画から前倒して実施することを決断しました。

カラーフィルムや印画紙などのフォト分野ではデジタル化の影響を受けて需要が大きく減少し、また一方、カメラ分野ではデジタルカメラ価格競争に一向に歯止めがかからないなど、厳しい状況が続いています。当社はこれまでも、フォト分野では不採算な事業や取引の峻別など事業規模の最適化を図り、カメラ分野では一眼レフなど

の高付加価値分野への絞り込みを行うといった構造改革を進めてきました。

しかしながら、デジタル化による需要縮小のスピードは当初の見込みよりも速く、今後もさらに加速度が増すことが予想されます。このような市場の変化に遅れることなく、あらゆる可能性に迅速に対応するために、①開発・生産・販売の全部門の大幅縮小、②経営資源をグループ各社へシフトし新規事業・既存事業を強化、③当社グループ33,000人の1割強を削減、の3点を骨子とする大幅な構造改革を実施することとしました。同事業の規模を縮小してグループ全体への影響を小さくするとともに、同事業の経営資源を他のグループ事業へ積極的にシフトすることによって、新たな成長を目指すことを狙いとしています。

なお、この構造改革の一部として当中間期に発生した固定資産の減損損失228億円を特別損失に計上したことから、当中間配当は無配とさせていただくこととしました。また、通期におきましては先の228億円を含め構造改革費用として約900億円の特別損失が見込まれることから、期末配当につきましても見送りとさせていただく所存です。株主の皆さまには誠に申し訳なく存じますが、何とぞご理解をいただきたく存じます。

この構造改革を断行するとともに、平成18年度以降は、当社グループの総力をあげて収益の大幅かつ急速な回復を図り、企業価値の向上を目指し、株主の皆さまのご期待に応えてまいります。

# Highlights

## 中間連結決算ハイライト

### 売上高 (単位: 百万円)

535,115

517,598

平成16年9月期

平成17年9月期

### 営業利益 (単位: 百万円)

32,524

39,408

平成16年9月期

平成17年9月期

### 中間純利益 (単位: 百万円)

8,200

△3,482

平成16年9月期

平成17年9月期

- ▶ 当中間期の**連結売上高は5,176億円(前年同期比3%減)**となりました。事業損失の解消に向けて構造改革を進めるフォトイメージング事業で売上を減少させていることが大きく影響していますが、この要因を除けば、**カラーMFP(多機能複写機)や液晶偏光板用保護フィルムなどの販売好調により、概ねすべての事業が増収基調**で推移しています。
- ▶ **営業利益は394億円(前年同期比21%増)**となりました。事業環境が厳しく損失計上が続くフォトイメージング事業でも損失が縮小し、**売上拡大・新製品効果・コストダウン・経費削減**などにより、**増益**となりました。
- ▶ 事業損失の早期解消を目的にフォトイメージング事業の構造改革を加速させるため、228億円の減損処理や構造改革費用を含め、全体として、287億円の特別損失を計上しました。その結果、**当中間純損失は35億円**となりました。

- この事業報告書に記載されている当社の現在の計画・戦略および将来の業績の見通しは、現在入手可能な情報に基づき、当社が現時点で合理的であると判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要素によりこの事業報告書の内容とは異なる可能性があることをご承知おきください。
- 文中における億円単位の表示については、億円未満を四捨五入にて表示しています。

# Review of Operations

## 主要事業の状況

### 情報機器事業



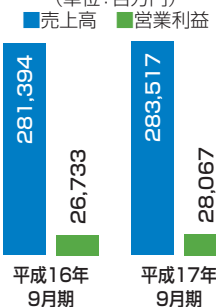
MFP事業では、カラーMFPの新製品を中心に国内外で販売が好調に推移し、増収増益。プリンタ事業では、カラープリンタの価格競争が厳しく、減収減益。事業全体では売上横ばいながら利益は5%の増益。

**カラーMFP:** 平成17年2月に発売した新製品「bizhub(ビズハブ)C450」が、各国市場で販売好調。また6月に「bizhub C351」を、7月には「bizhub C250」を投入するなどラインアップを強化。カラーMFPの販売台数は前年同期比82%増。

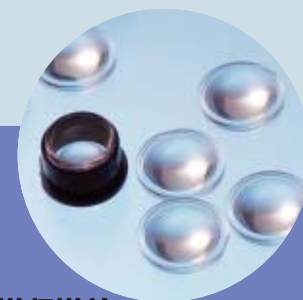
**モノクロMFP:** 平成17年7月には、商業用印刷市場をターゲットとした高速MFP「bizhub PRO(ビズハブ プロ)920」を発売。ラインアップの強化により、販売台数は前年同期比34%増。

**カラープリンタ:** 低速領域では「magicolor(マジカラー)2400」シリーズを、高速領域では「magicolor 5400」シリーズを中心に販売拡大に取り組むが、価格競争が激化し事業収益は悪化。

(単位:百万円)



### オプト事業



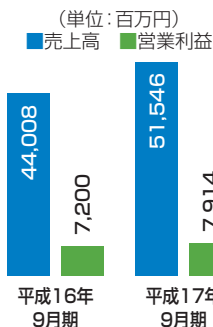
液晶材料事業の好調により、増収増益。

**液晶偏光板用保護フィルム:** 視野角拡大フィルムなど、高性能製品を中心に大幅に数量拡大。

**光ピックアップレンズ:** 調整局面が続いていたCD/DVD用ピックアップレンズは、平成16年並みのレベルに回復。

**レンズユニット事業:** ビデオカメラ用レンズユニットが好調に推移し、販売拡大。

**カメラ付携帯電話用カメラユニット:** マイクロカメラが携帯電話メーカーの新機種に採用されたことにより、販売拡大。



注: 売上高はグループ内取引を除いた外部顧客に対する売上高です。



## フォトイメージング事業

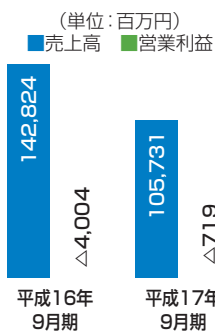
カラーフィルム・印画紙など、写真感光材料分野の需要減少が加速化。デジタルカメラは価格競争は厳しいが、高付加価値製品に絞り込み損失幅は縮小。全体では大きく減収となるが、損益は改善。

**カラーフィルム：**デジタル化の影響で欧米市場での需要減少が加速化。また、アジア・インド・ロシア・中東などでも在庫調整の影響で販売が減少し、販売数量は全体では22%の減少。

**デジタルミニラボ機：**価格競争が激化し、販売台数が48%減少。

**印画紙：**採算性重視で取引を峻別した結果、販売数量は22%減。

**デジタルカメラ：**デジタル一眼レフ「α Sweet DIGITAL (アルファ・スウィート・デジタル)」など、高付加価値製品中心にラインアップを絞り込み、減収ながら収益は改善。

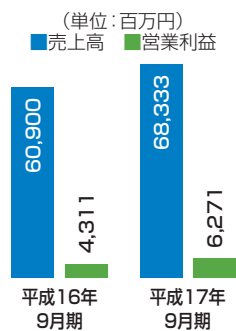


## メディカル&グラフィック事業

医療分野、印刷分野ともに堅調に推移し、増収増益。

**医療分野：**国内外ともにデジタルX線入出力機器や、それに対応したドライフィルムが好調に推移。

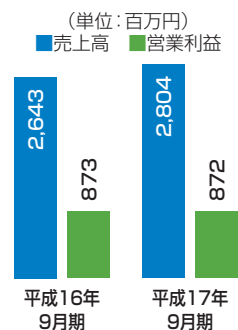
**印刷分野：**印刷フィルムの需要は減少するが、色校正システムやデジタルカラー印刷機などのデジタル機器の販売に注力。



## 計測機器事業

色計測、三次元計測機器を中心に堅調に推移。

大型液晶テレビなど、フラットパネルディスプレイ業界向けの色計測機器の販売が好調に推移。三次元計測機器も販売拡大に取り組む。



# Financial Section

ここがポイント!



## 中間決算のご報告

**現金及び預金** ▶640億円となり、前期末(平成17年3月末)から47億円増加しました。

**たな卸資産** ▶1,814億円となり、前期末比39億円増加しました。

**有形固定資産** ▶2,150億円となり、固定資産の減損会計の適用等により前期末比77億円減少しました。

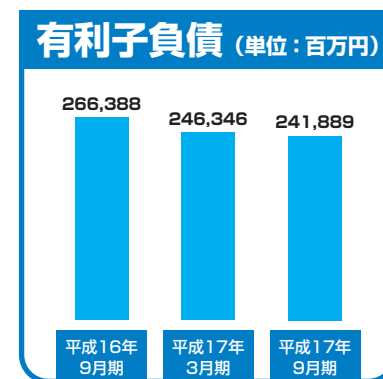
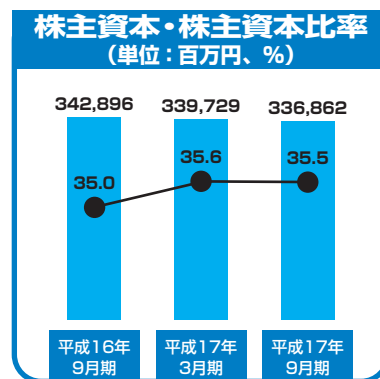
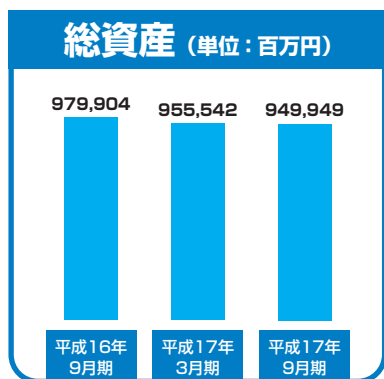
**有利子負債** ▶引き続き削減の結果、前期末からさらに45億円減り、2,419億円となりました。

**株主資本** ▶3,369億円となり、株主資本比率は35.5%となりました。

### 連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円、未満切捨)

	当中間期 平成17年9月30日	前期 平成17年3月31日
現金及び預金	64,023	59,330
受取手形及び売掛金	245,203	243,098
たな卸資産	181,410	177,505
その他	56,766	62,794
<b>流動資産合計</b>	<b>547,403</b>	<b>542,728</b>
有形固定資産	214,954	222,617
無形固定資産	105,923	109,625
投資その他の資産	81,668	80,570
<b>固定資産合計</b>	<b>402,546</b>	<b>412,813</b>
<b>資産合計</b>	<b>949,949</b>	<b>955,542</b>
支払手形及び買掛金	142,327	138,074
有利子負債	241,889	246,346
その他	226,741	229,671
<b>負債合計</b>	<b>610,957</b>	<b>614,092</b>
少数株主持分	2,129	1,720
<b>資本合計</b>	<b>336,862</b>	<b>339,729</b>
負債・少数株主持分及び資本合計	949,949	955,542





## 連結損益計算書

(単位：百万円、未満切捨)

ここがポイント！

	当中間期 平成17年4月1日～ 平成17年9月30日	前中間期 平成16年4月1日～ 平成16年9月30日
売上高	517,598	535,115
売上原価	278,459	300,469
売上総利益	239,138	234,646
販売費及び一般管理費	199,730	202,121
営業利益	39,408	32,524
営業外収益	7,715	7,503
営業外費用	11,877	11,861
経常利益	35,245	28,166
特別利益	677	301
特別損失	28,691	5,220
税金等調整前中間純利益	7,231	23,247
法人税等	10,401	15,023
少数株主利益	312	23
中間純利益(△損失)	△3,482	8,200



フォトイメージング事業の構造改革の影響もあり、前年同期比175億円の減収となりましたが、他事業では概ね増収基調で推移しています。

コンシューマー製品の価格下落・数量減少といったマイナス影響がありましたが、コストダウンや販管費の削減の寄与により、前年同期比で営業利益69億円、経常利益71億円の増益となりました。

固定資産の減損会計の適用による損失やフォトイメージング事業の構造改革費用を中心に特別損失を計上したことなどにより、中間純利益は35億円の損失を計上することとなりました。

ここがポイント！



税金等調整前中間純利益が72億円となったものの、非資金項目である減損損失233億円等により営業活動キャッシュ・フローは372億円となりました。

新製品ののための金型投資に加え、情報機器事業とオプト事業の生産増強のための設備投資等を行った結果、投資活動によるキャッシュ・フローは257億円のマイナスとなりました。

配当金の支払額に加え、社債の償還を中心に有利子負債のさらなる削減を行い、財務活動によるキャッシュ・フローは75億円のマイナスとなりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、未満切捨)

	当中間期 平成17年4月1日～ 平成17年9月30日	前中間期 平成16年4月1日～ 平成16年9月30日
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	37,213	22,543
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△25,707	△27,325
I+II フリー・キャッシュ・フロー	11,505	△4,781
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,505	△9,278
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	687	859
V 現金及び現金同等物の増減額(減少：△)	4,688	△13,199
VI 現金及び現金同等物の期首残高	59,485	83,704
VII 新規連結による現金及び現金同等物の増加額	1	447
VIII 現金及び現金同等物の中間期末残高	64,175	70,951

コア技術の深堀りと先行化で技術革新を推進

# 21世紀をサポートする、コニカミ

世界トップクラスの技術力を活かして、多彩な製品とサービスを提供するコニカミノルタ。コニカミノルタのコア技術は、情報のデジタル化やネットワーク化を進展させ、高度化する医療を支え、高精度な製品を実現するなど、21世紀の発展に貢献しています。皆さまにコニカミノルタをより深くご理解いただくため、成長の源泉となるコア技術をご紹介します。

## 光学技術

### 小型・超精密プラスチックレンズ

コニカミノルタのレンズはデジタルカメラ、カメラ付携帯電話、光ディスクのピックアップ、レーザービームプリンタなど、さまざまな映像機器や入出力機器に用いられています。

なかでもピックアップレンズの分野では、いち早く非球面プラスチックレンズを開発。高精度かつ小型の超精密プラスチックレンズは、CDプレーヤ・モバイル機器などに広く採用されています。

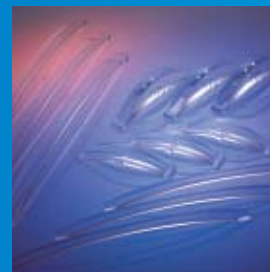
また、最近話題のブルーレーザを用いる次世代DVDに対応可能な光ディスクレンズも積極的に展開しています。

超精密レンズの生産には、高精度な成形金型の加工技術が欠かせません。コニカミノルタは、画期的かつ高度な「光学設計技術」を総合的に駆使することで、高精度なレンズを大量かつ安定的に供給しています。

次世代DVD用  
ピックアップレンズ



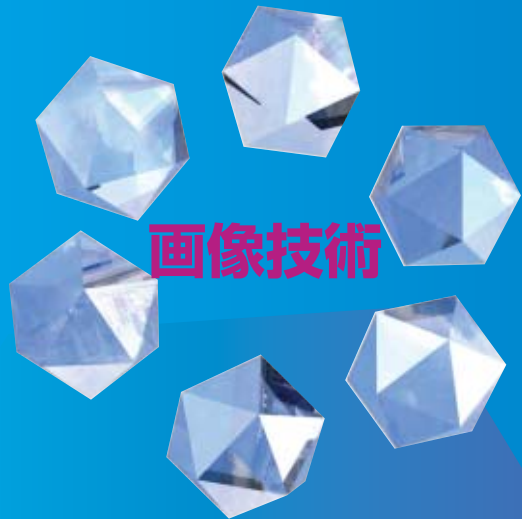
レーザープリンタ用  
レンズ



## ナノ加工技術



# ノルタのコア技術



## 画像技術

### 世界最高レベルのデジタル画質を実現した位相コントラスト技術

X線が物体を透過するときに生じる屈折による画像濃度変化(位相コントラスト)を利用することで、物体の輪郭が強調された鮮明な画像を得ることができます。コニカミノルタは、世界で初めてこの位相コントラスト技術を乳房撮影に導入し、かつてない高画質のマンモグラフィ装置の開発に成功。従来システムでは見えにくかった乳腺構造や、微小石灰化などの病変の鮮明な撮影を可能にしました。

マンモグラフィ装置  
(乳房X線撮影装置)

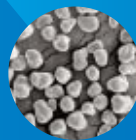


位相コントラスト画像



従来の画像

## カラーMFP



重合法トナー



従来のトナー

## 材料技術

### MFP・プリンタの高画質化と高速化に対応する重合法トナー

高画質プリントに最適で、環境面でも優れた「重合法トナー」。コニカミノルタでは、樹脂微粒子をあらかじめ乳化重合法\*で合成した後、着色剤などと化学的に凝集・融着させる方法で製造しています。重合法トナーは化学反応で結びつきあってできるので、粒子が従来の粉砕法トナーと比較して小粒径で大きさも揃っています。鮮明なプリントが得られるだけでなく、使用するトナーの量が少なくてすむので、材料の面からも環境負担の少ない製品です。

\* 乳化重合法: 石鹸のように乳化剤を水に溶かし、これに不溶性の樹脂原料を加えてかき混ぜながら、水溶性の開始剤を用いて分子を結合させて樹脂粒子をつくる方法



より美しく、よりコンパクトに進化した高速&高画質  
フルカラー・ネットワーク複合機(カラー/モノクロとも毎分25枚、A4ヨコ)

# bizhub C250

1

**コンパクト設計&  
高画質**

新開発の4連タンデムエンジンを搭載したコンパクトボディと高精度の画像処理で、さらに美しい仕上がりを実現。再現性と定着性を兼ね備えた、微粒子の重合法トナーを採用しています。

2

**快適でスピーディな  
ビジネスドキュメントの  
配信&ファックス機能\***

紙文書もネットワークスキャン機能で、すばやくデータに変換。パソコン内のデータファイルと同様、スムーズな情報共有や配信が行えます。

また、ファックスドキュメントをネットワーク上で有効活用する、ファックスとパソコンの連携が可能です。

\*ファックス機能はオプションです。

3

**情報資産を守る  
セキュリティ  
マネジメント機能**

企業や個人情報などを外部の脅威から守るため、さまざまなセキュリティ機能を搭載しています。

4

**ユニバーサルデザイン&  
環境への配慮**

「だれもが心地よく使え、さらに好ましいデザインである」というユニバーサルデザインのコンセプトを念頭に設計。操作パネルなどにそのコンセプトを取り入れています。また、消費電力を軽減する省エネ設計など環境にも配慮しています。

**bizhub**

bizhubはコニカミノルタの新しい情報機器ブランド。そのコンセプトは、使う人がビジネスの中核となるための先進システムを提供することです。

# トピックス

2005.07.15

光学デバイス製品販売会社「コニカミノルタ精密光学(上海)有限公司」を中国上海市に設立

2005.07.19

ソニーとレンズ交換式デジタル一眼レフカメラの共同開発で合意

2005.08.23

FCバルセロナで活躍中の「ロナウジーニョ選手」をMFP・プリンタの広告キャラクターに起用を決定



2005.08.31

コニカミノルタ グラフィックイメージングU.S.A.社が、米国大手印刷用プレートメーカーのアメリカンリソ社を買収

2005.09.30

乳がんの早期発見啓発ウェブサイト「コニカミノルタ ピンクリボンサイト」をリニューアルオープン



<http://konicaminolta.jp/pr/pinkribbon>

2005.10.11

放射線治療装置などの販売・サービス会社に出資し、三菱重工業、三菱商事、西華産業と合併で「MHIメディカルシステムズ株式会社」を設立

2005.10.20

プラネタリウム館「サンシャインスタースタートーム“満天”」(東京・池袋)、2004年3月20日オープン以来、通算来場者50万人を達成



## コニカミノルタの 2006年賀ポストカード 好評受付中!

2006年 年賀状の準備はもうお済みですか? 多彩なタイプ、豊富なテンプレートから選べるコニカミノルタのポストカードで、個性あふれる年賀状をつくってみませんか。

### ●キャラクター入り年賀状

成年にピッタリのキャラクター「スヌーピー」「お茶犬」をはじめ人気の「ピングー」や「いわさきちひろ」など

楽しいテンプレートが満載。  
写真がなくても大丈夫。



PEANUTS © United Feature Syndicate, Inc.  
[www.snoopy.co.jp](http://www.snoopy.co.jp)

### ●プロがデザインする年賀状

プロのデザイナーがおお客様のご要望、希望イメージに合わせて写真を加工、レイアウトします。特に、結婚報告や誕生報告にぴったりの人気タイプです。

ぜひ、店頭のパフレットかWebページをご覧ください。

WebページURL:

<http://onlinelab.jp/nenga/>



©SEGA TOYS / HORIPRO

# Corporate Data

## 会社概況

役員 (平成17年9月30日現在)

### ■取締役

取締役 会議長	植松 富司
取締役	岩居 文雄
取締役	太田 義勝
取締役 (株式会社島津製作所 相談役)	藤原 菊男
取締役 (株式会社小松製作所 顧問)	片田 哲也
取締役 (ダイキン工業株式会社 代表取締役会長兼CEO)	井上 礼之
取締役 (明治乳業株式会社 代表取締役会長)	中山 悠彦
取締役	東山 善彦
取締役	小坂 橋 洸夫
取締役	本藤 正則
取締役	河浦 照男
取締役	石河 宏

### ■執行役

代表執行役社長*	岩居 文雄
代表執行役副社長*	太田 義勝
常務執行役*	本藤 正則
常務執行役*	河浦 照男
常務執行役*	石河 宏
常務執行役	河野 盾臣
常務執行役	染谷 義彦
常務執行役	藤井 博
常務執行役	堀 利文
常務執行役	松丸 隆剛
常務執行役	宮地 昌衛
常務執行役	山名 三治
執行役	大浦 村 秀樹
執行役	岡村 小野寺 薫
執行役	木谷 彰男
執行役	児玉 篤篤
執行役	齋藤 知久
執行役	杉山 高司
執行役	谷田 清文
執行役	古川 博文
執行役	松崎 正年
執行役	松本 泰男

注1：取締役 藤原菊男、片田哲也、井上礼之、中山悠の4氏は、商法第188条第2項第7号/2に定める社外取締役です。

注2：\*は取締役を兼務しています。

注3：取締役を兼務しない執行役は役位別50音順に記載しています。

会社概況・株主メモ (平成17年9月30日現在)

商号	コニカミノルタホールディングス株式会社
創業	1873年(明治6年)
株式会社の設立	1936年(昭和11年)
資本金	37,519百万円
従業員数	88名(グループ従業員数 32,924名)
本社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービルディング
関西支社	〒550-0005 大阪市西区西本町2-3-10西本町インテス
決算期	毎年3月31日
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先・郵送先	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-232-711(通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店

注：名義書換代理人UFJ信託銀行株式会社は平成17年10月1日付をもって三菱信託銀行株式会社と合併し、三菱UFJ信託銀行株式会社となりました。

## 当社製カレンダーの贈呈

国内の個人株主の皆さま\*に当社製カレンダーを毎年12月にお送りします。

\* 本年9月30日時点の国内における500株以上の個人株主の皆さまが対象となります。



## 株式の状況 (平成17年9月30日現在)

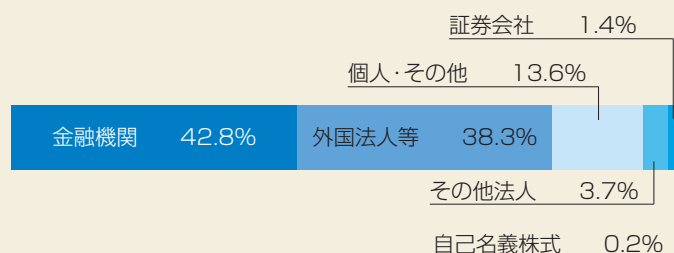
会社が発行する株式の総数	1,200,000,000株
発行済株式の総数	531,664,337株
株主数	45,126名
大株主	

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数 (千株)	出資比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	49,337	9.3
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	30,028	5.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	23,981	4.5
株式会社東京三菱銀行	17,794	3.3
日本生命保険相互会社	12,009	2.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井アセット信託銀行再信託分・三井住友銀行退職給付信託口)	11,875	2.2
野村信託銀行株式会社(退職給付信託UFJ銀行口)	10,801	2.0
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	10,519	2.0
大同生命保険株式会社	9,040	1.7
ユービーエス エージーロンドン アイピービー クライアント アカウント	8,800	1.7

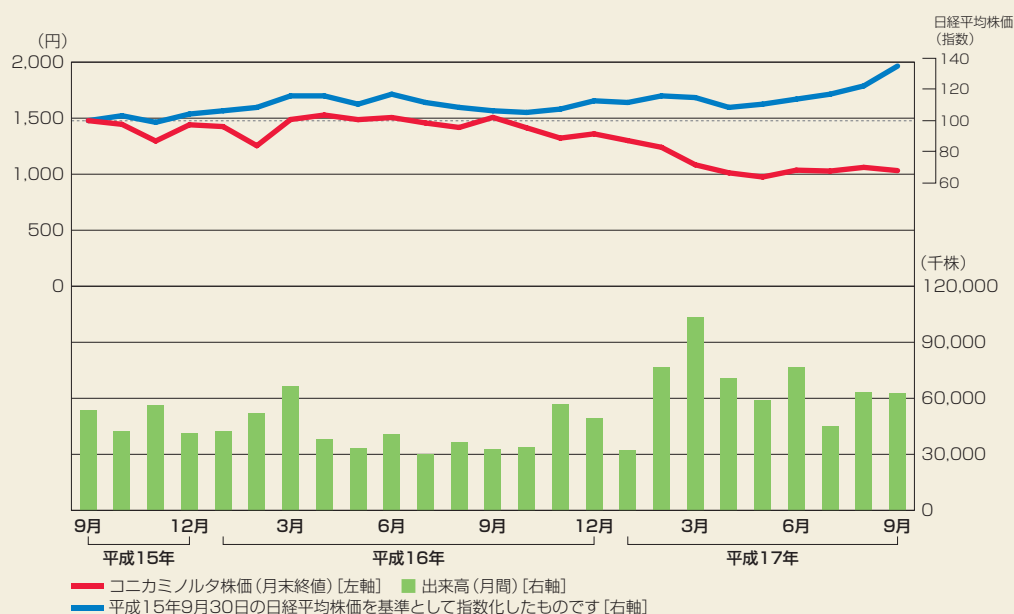
注：下記の株主さまについては大量保有報告書により、当社の株式を相当数保有している旨の報告を受けていますが、当社として中間期末時点における所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めていません。

大量保有報告書提出会社	報告義務発生日	保有株券等の数	株券等の保有割合
野村證券株式会社	平成17年8月31日	20,287千株	3.8%
モルガン信託銀行株式会社	平成17年9月30日	48,996千株	9.2%
テンブリン・アセット・マネジメント・リミテッド	平成17年9月30日	39,556千株	7.4%

## 所有者別株式分布状況



## 株価と出来高の推移 (東京証券取引所)



## おしらせ

○ 当社株式に関する事務手続き用紙(お届けの住所・印鑑・姓名等の変更届、単元未満株式買取請求書、単元未満株式買増請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、下記名義書換代理人にて電話ならびにインターネットで承っておりますので、ご利用ください。

三菱UFJ信託銀行(株) 証券代行部  
 受付フリーダイヤル:

0120-244-479(自動応答)\*24時間対応しています。

0120-232-711(オペレータ対応)\*土・日・祝日を除く 9:00~17:00

インターネットアドレス: <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

# Notice お知らせ Board

## マイルストーン MILESTONE

本誌タイトル「Milestone(マイルストーン)」は、「道しるべ」を意味する言葉です。

コニカミノルタは、目標達成に向けて着実に歩みを進め、株主の皆さまとともに「マイルストーン」となる出来事を築いていきたいと考えています。当社をご理解いただき、より親しみを感じていただくために、コニカミノルタの現在と未来を分かりやすくお届けします。

## CSRへの取り組み

コニカミノルタグループでは、株主、お客さま、お取引先、地域社会、従業員など企業にかかわるさまざまな方々との双方向コミュニケーションが、CSR\*の重要な要素と位置づけています。

### 地域での情報公開と対話

コニカミノルタの事業所では、地域の方々と定期的に対話をする機会を設け、「透明性」と「継続性」を柱に、双方向コミュニケーションに努めています。なかでも、「PRTR法」(化学物質排出把握管理促進法)が施行されたのをきっかけに、東京サイトでは、他社に先駆けて平成14年から毎年、地域環境報告会を実施しています。平成15年からは小田原サイト、また今年からは伊丹サイトでも開催を始め、地域との交流の輪を広げています。東京、小田原ともに2回目以降の報告会では、水使用量の削減など参加された方々のご要望やご意見への対応に重点を置いて説明し、対話の充実を図っています。



### 「CSRレポート」の発行

平成17年度から従来の「環境・社会報告書」を「CSRレポート」に変更し、コニカミノルタグループに関係する幅広い方々とのかわりについて内容の充実を図りました。本レポートのダイジェスト版は、株主の皆さまにも発行と同時に郵送させていただき、多くの方々から貴重なご意見・ご感想をお寄せいただきました。

この場を借りて、お礼申し上げます。

「CSRレポート」は、コニカミノルタのホームページからご覧いただけます。

<http://konicaminolta.jp/about/csr>

\*CSR : Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任



KONICA MINOLTA

コニカミノルタ ホールディングス株式会社

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービルディング

総務部 TEL 03-6250-2000

広報宣伝部 TEL 03-6250-2100

(平成17年12月発行)

## コニカミノルタのホームページへようこそ!

「株主・投資家の皆様へ」のサイトでは、機関投資家向け決算説明会での説明内容を資料とともに音声でお聞きいただけます(音声は通常決算説明会翌日から約3カ月間掲載)。この他にも経営に関する最新情報を随時掲載していきます。是非ご利用ください。

掲載内容: トップメッセージ、IRカレンダー、事業報告書、アニュアルレポート、有価証券報告書、知的財産報告書、会社案内、CSRレポート、決算短信、説明会資料、年次財務データ、コーポレートガバナンス、経営戦略、株価情報\*、株主・株式情報、決算公告など

\*大和総研 株価表示サービス

<http://konicaminolta.jp/about/investors>



この小冊子は再生紙に大豆インキで印刷しました。

